

理事長祝辞（高校入学式）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、本日この日をともに迎えてくださったご家族・保護者の皆さまにも、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんはいま、新しい扉を開けたばかりです。新しい教室、新しい先生、そしてまだ名前も知らない、たくさんの新しい仲間。期待と緊張が入り混じる、この感覚を、どうか大切にしてください。

今日、皆さんへ贈りたいのは、「つながり」についての話です。

人と人のつながりには、大きく二つの種類があると言われています。一つは「Strong Ties（強いつながり）」。家族、親友、気心の知れた仲間です。困ったときに相談でき、失敗したときに励ましてくれる、自分をよく理解してくれている存在です。

もう一つは「Weak Ties（弱いつながり）」。友人の友人、部活の大先輩や歳の離れた後輩、ちょっとした知り合い、あるいは今日初めて言葉を交わした人。一見、薄いご縁のように見えるこの「弱いつながり」が、実は人生を大きく動かす力を持っています。

アメリカの社会学者、マーク・グラノヴェターは、「弱いつながりの強さ」という研究の中で、こう示しました。新しい仕事の情報や思いもよらないチャンスは、近しい人からではなく、弱いつながりを通じてやってくることが多い、と。なぜでしょうか。強いつながりの仲間とは、毎日同じ時間を過ごしているぶん、知っている情報や考え方もだいたい同じになってきます。しかし弱いつながりの相手は、自分とは異なる世界を生きています。そこには、自分だけでは決して出会えなかった情報、価値観、そしてチャンスが眠っています。

つまり、こういうことです。

人生を支えるのは、強いつながり。

人生を広げるのは、弱いつながり。

高校の三年間は、この両方を育てることができる、またとない貴重な時間です。

今日ここにいる仲間の中に、十年後、二十年後、苦しいときにそっと連絡できる「強いつながり」が生まれるかもしれません。同時に、部活の先輩の一言、ボランティア先で出会った一人の大人、あるいは修学旅行

でたまたま隣になった誰か—そんな「弱いつながり」が、皆さんの将来の扉を開けることもあるのです。

だからこそ、目の前の人を大切にしてください。仲のいい友だちとの時間はもちろんですが、それと同時に少し遠い存在、例えば自分と違う考えを持つ人、違うグループの人、先生や地域の人にも、ぜひ心を開いてみてください。

これまで皆さんを支えてくれた家族や友人という「強いつながり」を大切にしながら、この学校での新しい出会いを恐れずに広げていくこと。それが、皆さんを予想もしなかった未来へとつなげていく方法だと、私は信じています。

高校生活は、楽しいことばかりではないかもしれません。うまくいかない日も、自分が嫌になる日も、きっとあるでしょう。そんなとき、強いつながりがあなたを支えてくれます。そして、思いもよらない弱いつながりが、次の一步を照らしてくれることがあります。

どうか、多くの人と出会い、多くのことを感じ、多くのことに挑んでください。この学校のすべての教職員が、皆さんの三年間を全力で支えます。

新入生の皆さんの高校生活が、豊かなつながりと大きな成長に満ちたものになることを心から願い、私からのお祝いと激励の言葉といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

令和8年4月10日
学校法人京都外国語大学
理事長 北 寿郎